

I. 2020年3月期 第1四半期 決算総括

%, YoY=前年同期比

需要環境活況で事業進展・業績ともに1Q順調スタート

売上収益	498.3億円	+11.1%
営業利益	13.8億円	+58.8% (※)

(※)NTTドコモ モバイル接続料単価改定に伴うNWサービス原価一括追加計上(4Q18 20.5億円)を本来の帰属期間に配分した前年同期比実績での増益率

◆ 法人NWサービスの開発注力・法人ストック売上* (+8.9%) と継続伸長

➢ フルMVNO/IoT サービスラインアップ拡充

- ・ 国内初eSIMサービス開始(7月)、法人向けeSIM提供に向け開発・準備中
- ・ SoftSIM(5月)、IoTデータ可視化・監視サービス(7月) 開始等

*法人ストック売上は、ストック売上からWAN・MVNE・個人売上除外

➢ マルチクラウド戦略遂行 クラウド売上 +10.7%

- ・ マルチクラウド連携先順次拡充: AWS・MS・Google
- ・ IIJオムニバスサービス機能拡張: MS Office365等アクセス時の最適経路制御を実現

➢ セキュリティ売上 +20.0% 強い需要継続 SOC・DDoSプロテクション等各サービス伸長

➢ 配信: 「バーチャル高校野球」インターネット中継配信プラットフォーム 5年連続提供

➢ JOCDN: 大口コンテンツ事業者 コンテンツ数約80%移行完了

◆ NW・SI 両分野で粗利改善基調にてスタート

➢ NW: スtock売上積み上げ及びフルMVNO固定費先行の粗利反動増もあり粗利 +14.0%・+6.1億円 YoY(※)

➢ SI: 前期期初から遂行の稼働率向上施策の継続効果で粗利 +23.3%・+3.6億円 YoY

◆ デジタル通貨取引・決済の新会社DeCurret第三者割当増資実施

➢ 決済分野での更なる事業連携を展望

➢ 新株主(11社): KDDI、コナミHD、住友生命保険、大同生命保険、明治安田生命保険、中部電力、阪急阪神HD、松井証券、エネルギー・コミュニケーションズ、ALSOK、凸版印刷

➢ 筆頭株主: IIJ(持分比率30%)、法人株主数: 30社、資本金: 86.3億円(含む 資本準備金)



日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。

事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。